

☐はリンク

※はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 グループホーム みすず ※

日付 平成19年9月30日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る (改善状況のコメントがあります！) ※

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して (特に良いと思われる点など)

津山市とその周辺地域で高齢者福祉を営む鶯園と身体障害者福祉を営む千寿福祉会の2つの法人が地域密着型サービス事業の必要性から認知症高齢者のグループホームを運営するようになり、その一つがこのホームである。設立して27年目を迎えた千寿福祉会を母体として、身体障害者施設みすず荘に隣接している。他に鶯園を母体とした別のグループホームもあり、福祉関係の運営ノウハウはしっかり身についており、施設運営は、一つの方程式で定まっているように思えるが、一つひとつのグループホーム全てにそれぞれの特長があり、金太郎飴になっていないことが、この法人の良いところかも知れない。一つの形に染まっておらず、一人の管理者と職員に運営が任せられていることに興味がある。

このグループホームは2つのユニットがあるが、当然2人の管理者と計画作成担当者があり、利用者の状態も異なるので、一年経過したばかりというのにユニットの様子も相当な違いがある。唯共通しているところは、『利用者に主体性があり、ホームで生活している行動を決める利用者の意思があり、利用者同士で助け合っている。そして職員も仲間と思っている。職員は利用者の思いや気持ちを一番大切に、目配り、気配りを心掛け、利用者一人ひとりの気持ちを感じようと心掛けている』ことだろうと思った。

管理者と計画作成担当者は、身体障害者施設や特別養護老人ホームでの経験者であり、このグループホームで初体験であるし、職員の多くもグループホームの未経験者が多い。この中で試行錯誤しながら、この一年、グループホームとはどうすれば良いのか、利用者がより安心して暮らせるにはどうしたら良いのか、職員は利用者にとどのように接したら良いのか、等、苦勞も多いと思うが、何事も一つ一つ改善していこうとする気持ちはしっかり持っている。そして何事も学ぼうとしているので、2年目、3年目と良いグループホーム作りに良い結果を残すであろう。そして利用者本位の生活が築き上げられるだろうと期待している。しかし認知症という病気は逆に職員の向上を待てくれない。2年、3年後には現在より相当重症化が進み、ホームの雰囲気やケア内容も厳しいことになるだろう。その時のことも考慮しながら、ケアサービスをどうしたら良いのかも職員全体で共有化していかなければならない。これらは母体全体としても考えなければならないだろう。

特に改善の余地があると思われる点

ホームの1年間の状況や自分の置かれた立場について、管理者はよく理解しており、自己評価に於いても肝心な事は全て改善しなければならないと認識している。その気持ちを持ち続けてもらいながら、最初は重要な事項に絞ってもらい、10項目くらいを1年間で確実に実行出来る目標を立て、職員の業務(仕事)に還元してもらって改善して欲しいと要望した。このように一つひとつ改善項目を実行していけば、きっと他にも波及効果が開け、良い結果を導き出していけると思う。サービス評価がホームの改善に繋がるよう、私達も協力していきたい。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	1、自主評価について…特に改善項目はないが、理念は母体と共通している内容である。それをグループホームなりに実践レベルで職員で話し合い、職員は何時でも見れるように掲示して、会議でも何時も話し合っている。 2、全体的に見て…『何だかほっとするね。みすずを訪ねてみませんか？』この理念を聞くと、聴いた方の心がほっとする気になる。認知症であろうと、身体障害を持っている人であろうが、『ほっとする』という空気を与えてくれることは心身共、とても有難い。このホームでも、これからケアやサービスの質の向上の中で、常にこの言葉や気持ちを実際の生活の場に具体的にどのような活かしていくのか、今後の大きな課題であろう。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	1、自己評価について…リビングルームや居室など家庭的な雰囲気を作っていくために、調度品や装飾を工夫していきたいと考えている。一年経過した段階で、まだまだ利用者の趣向の引き出しも考えて皆の生活臭を感じられる空間作りは大切なことである。 2、全体的に見て…2つのユニットは敷地の高低差があり、利用者の行き来が難しい立地状態にある。ホームの前には母体の庭や広場もあり、季節の良い時期には利用者の方々を外に出て、両ユニットの人とも交流したり、畑で作物の手入れや収穫をして楽しく過ごすようなきっかけ作りも大切かと思う。人同士が楽しく交わり、親しみのある人間関係を作っていくのも、家庭的な雰囲気作りには大変役立つのではないかと思う。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		○
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	1、自主評価について…介護計画作成者のレベルアップをしていくことと介護検討会の進め方についても改善していこうと考えている。職員全体がレベルアップして、一人ひとりに見合ったケアサービスが出来るようにしていこうとすることは、ケアの基本となるので、しっかりと改善に取り組むことは大変重要なことなので、職員間でもよく話し合っ、一つずつ着実に進めていくと、色々な面に波及効果が見出せると思う。 2、全体的に見て…介護計画と介護・生活記録は工夫をしながら、きっちとした書類はあるが、計画を作る段階で具体的な表現や客観的な目標の設置がまだ不十分なところもあって、利用者の生活目標をしっかりとした状態でとらえていないところもあるように思える。これから改善していこうとしているので安心してはいる。その効果を期待している。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供		○
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	1、自主評価について…職員の研修をしっかりとしようとする考え方を前面に押し出している。設立して1年目が過ぎ、これから管理者と職員が一体となってグループホームのサービス向上をしていくためには、職員の資質の向上が第一であると思う。出来るだけ同じグループホームの人との交流も必要と思う。 2、全体的に見て…運営体制については、これから一つひとつの改善の積み重ねによってサービスの向上に繋がっていくことになる。母体の社長もよく来てくれて意思疎通も出来ていると思うので、管理者や職員でしっかりと話し合いを持って先ずホーム内のコミュニケーションをしながら、母体法人ともグループホームの体制を理解してもらうことも大切だと思う。グループホームは家族と共にある意義が大きいので、家族との関係をしっかりと作っていくようにしてもらいたいと考える。		